

課題研究「学生の思考を鍛えるライティング教育の課題と展望」の進捗状況

研究代表：井下千以子

2018年度課題研究集会では、問題背景、目的、本学会における研究の位置づけと意義を明らかにしたうえで、下記の通り、4者による報告と、それに対する指定討論が行われた。初回の発表であることから、まずは大学におけるライティング教育の歴史を振り返り、現状の問題を析出し、初年次から卒業後までの課題と成果を俯瞰的に捉えた。

企画者：井下千以子

司会者：柴原宣幸、関田一彦

指定討論者：小笠原正明、杉谷祐美子

報告者

- 1)井下千以子：学生の思考を鍛えるライティング教育の充実に向けて
- 2)大島弥生：初年次必修文章表現科目の成果と課題
- 3)成瀬尚志：レポート課題にどのような論題をかせばよいか
- 4)小山 治：思考を鍛えるようなレポート学習経験をすると卒後の職業にどう生きるか

今後は、大会でのラウンドテーブルでの発表を予定している。課題研究ラウンドテーブルでは報告者を課題研究メンバーに限る制約がないため、ライティング教育に関わる先生方に広く発表をお願いし、層の厚い研究を目指している。今大会では、正課と正課外をつなぐライティング教育の中核となるライティングセンターの機能に焦点を当てる。事例報告を依頼したのは、創価大学、青山学院大学、関西大学、早稲田大学の4大学である。

関西大学と早稲田大学のライティングセンターは歴史があること、創価大学と青山学院大学は設立間もないことから、それぞれの立場で、歴史のあるライティングセンターには成果や評価について、これからというライティングセンターには成り立ちや課題などについて話題提供いただく予定である。

各大学の事例報告からライティングセンターの多様性を確認した上で、「学生の思考を鍛えるライティング教育」に向けて、ライティングセンターの持続的効果的な指導体制や支援のあり方について検討する。